



日本共産党区議会議員

こんにちは
伊藤和彦です

自宅 足立区花畑6-7-23
足立区役所 電話3880-5111(内線4650-4654)
日本共産党区議団 直通3880-5770

<http://www5.familie.ne.jp/~k-itou/index.html>

ギャラクシティが生まれ変わります

スケジュール

- 21年度 基本計画・基本設計
- 22年度 実施設計
- 23年度 リニューアル工事実施
- 24年度 新規オープン



日本共産党が要求してきた「若者の居場所」

子ども・若者が企画段階から参画
体験重視の施設へ

「豊かな実体験の場」「青少年自身が企画・運営の主人公」として生まれ変わります
青少年センターとして、子どもや青年のよりどころといえる機能を果たしているとはいえませんでした。

ギャラクシティ(西新井東口)は、区政60周年の記念事業で未来をにう子どもたちのための施設「子ども科学館」として多額の税金を投入して建設しました。その後、ドームシアターの廃止など「科学館」とはいえない施設になり、西新井大師駅前の青少年センターの機能を移転しました。しかし、足立区の

日本共産党は「青少年自身が企画・運営に参画して豊かな実体験の場や機能強化をすべき」とくり返し求めてきました。ついに、この要望が実現し、プラネタリウムの更新にとともに、ギャラクシティ全体をリニューアルすることになり、昨年末に基本計画が報告されました。

2008年12月の本会議で質問

日本共産党の質問=先日、杉並の青少年センター「ゆう杉並」の調査に行きました。「ゆう杉並」では、中高生自身が運営委員会をつくって、管理・運営にも携わり、約50の企画事業を行っています。また、区内の中高生がだれでも企画書を出しバックアップを受けられる中高生自主企画も、33事業行いました。自らが企画を立て成功させる、そのプロセスと達成感は得がたい体験です。職員は、直営だからできると語っていました。一方、足立区では、青少年センターに指定管理者制度を導入し実質的に丸投げをする、これは計画の重点目標とは矛盾・逆行しているのではないのでしょうか。

青少年センターは子ども施策のなめであり、豊かな遊び・実体験ができる場として、区が直接企画・運営に携わり、充実すること、青少年自身が企画・運営に携わることで、子ども自身が達成感を味わえる取り組みこそが必要と思うがどうか。

区の答弁=指定管理者に運営は委ねるが、「青少年自身が企画・運営に携わる事業の実施も検討」「遊びや実体験ができる場としての役割や機能をはたす」

この答弁をもとに基本計画ができました。

主な施設の変更概要

- 1階
 - 【回廊】 チャレンジコーナー(身体を使った遊び) クライミングウォール・ごろごろマット・乗り物体験
 - 【イベントホール】 体験工房・大型工作体験コーナー・ミニドーム・土遊び水遊びコーナー(半屋外)
- 2階
 - 【第1・2研修室】 キッズルーム(遊具・絵本・おもちゃ・お絵かきコーナー・)はいはいコーナー・授乳室・子どもトイレ・親子カフェ
- 地下2階【ロビー】 中高生の居場所(自由にくつろいだり、交流・活動拠点として利用できる)
- 【フリースペース】 音楽室・レクホール
- 【家庭教育相談室】 音楽系多目的室
- 吹抜け 大型ネット遊具
- 屋上 球技コーナー(ゴールポスト・コート・ネット)
- 屋外レストラン キッキングスタジオ

子どもや保護者にアンケート
計画をつくるにあたり、区は子どもや保護者にアンケート調査を行いました。そこでは、どの世代も共通して「思いっきり身体を動かせる場」を求めていることが浮き彫りになり、これも計画に反映されました。
「子どもの参画」重視し
「子どもの参画」重視し
基本計画では、子どもや、若者がプログラム開発やイベント企画などに参画し、運営も区内にできた大学とも連携しながらすすめることが柱となりました。
青少年の参画の企画運営へ大きく前進しました。

文化ホールの一年閉鎖はやめて!

区は、施設の改修工事がおこなわれる来年一年間、文化ホールも「電気など止めて工事を行うので使用できない」との理由から閉鎖すると、利用者に向けています。

日本共産党は「66万区民で唯一の文化ホール。一年閉鎖ではなく、利用できる期間をふやすべき」と要請しました。

区もその方向で対応すると答えました。

